

支援機器等教材活用実践事例フォーマット

実践年度・タイトル		平成(30)年度 タブレットPCのカメラ、ビデオ編集を活用した言葉の表現
授業について	教科名等	<input checked="" type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数/数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作/美術 <input type="checkbox"/> 家庭/技術・家庭 <input type="checkbox"/> 体育/保健体育 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 外国語/外国語活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 各教科等を合わせた指導 <input type="checkbox"/> その他の教科 <input type="checkbox"/> その他()
	単元・題材名	ことわざ・慣用句
	授業の目標	・相手や目的に応じ、調べた事などについて、筋道を立てて話すことや話の中心に気をつけて聞くことができるようにするとともに、進んで話し合おうとする態度を育てる。
	学力の3要素	<input checked="" type="checkbox"/> 「知識及び技能」 <input checked="" type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」 <input checked="" type="checkbox"/> 「主体的に学習に取り組む態度」
学習集団と子供の実態	学校・学部・学年・人数	<input checked="" type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級による指導 <input type="checkbox"/> 特別支援学級 <input type="checkbox"/> 特別支援学校 <input type="checkbox"/> 就学前 <input checked="" type="checkbox"/> 小学生 <input type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生以降 <input type="checkbox"/> 特定されない (3)年 (34)人
	対象の障害	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱 <input type="checkbox"/> 言語障害 <input type="checkbox"/> 自閉症 <input type="checkbox"/> 情緒障害 <input checked="" type="checkbox"/> LD(学習障害) <input checked="" type="checkbox"/> ADHD(注意欠陥/多動性障害) <input type="checkbox"/> その他
	子供の困難さ	<input checked="" type="checkbox"/> 見ること <input type="checkbox"/> 聞くこと <input checked="" type="checkbox"/> 話すこと <input checked="" type="checkbox"/> 読むこと <input checked="" type="checkbox"/> 書くこと <input type="checkbox"/> 動くこと <input type="checkbox"/> コミュニケーションをすること <input type="checkbox"/> 気持ちを表現すること <input checked="" type="checkbox"/> 落ち着くこと・集中すること <input type="checkbox"/> 概念(時間、大きさ等)を理解すること <input type="checkbox"/> 学習(計算、推論等)すること <input type="checkbox"/> その他 読み書き、特に新出漢字や文章を書くことが定着しない状況であった。 板書や作文等の書字、文章の構成に困難を抱えている。 長文を読むことに時間がかかり、疲れやすい。
支援機器等教材の活用について	活用の意図	Aコミュニケーション支援(<input type="checkbox"/> A1意思伝達支援 <input type="checkbox"/> A2遠隔コミュニケーション支援) B活動支援(<input type="checkbox"/> B1情報入手支援 <input type="checkbox"/> B2機器操作支援 <input type="checkbox"/> B3時間支援) C学習支援(<input checked="" type="checkbox"/> C1教科学習支援 <input type="checkbox"/> C2認知発達支援 <input type="checkbox"/> C3社会生活支援) D実態把握支援(<input type="checkbox"/> D1実態把握支援) 絵や言葉だけでは表現しきれない内容を動画や音(声)などを加えて表現し、ことわざの意味を視覚的に活用し、理解を深める。
	使用した支援機器等教材の名称と画像	支援機器:iPad (カメラ機能、メモ機能、通信機能 * Air Drop:Wi-FiとBluetooth)、 アプリケーション:iMovie AppleTV、テレビ
授業展開	授業展開・支援の手立て	1. 本時のめあて: 「ことわざの意味を理解し、劇で表す」 ①班ごとにどのことわざにするか決める ②劇の台本を作る ③練習 ④本番⇒劇をiPadで撮影する ⑤確認 2. 班で劇で表すことわざを決め、台本を作成する。 対象グループ(3人グループ): 「捨てる神あれば拾う神あり」 ・劇:受験するが落ちてしまい、がっかりして家に帰ると、電話がかかってきて、実は合格だった、というような内容 <台本を作るときの対象グループでのやりとり> ・台本のセリフを考える場面。「残念ですが、不合格です。お帰りください。」の「お帰りください。」があまりにもひどい言葉だと対象児から意見が挙がり、『不合格な上に「お帰りください」は冷たすぎる。やりたくない。』班の一人の児童が、「じゃあ、違う言葉にしよう」と考え、セリフを変えた。 3. iPadで撮影をする(図1)。 ・撮影前に班のみんなでセリフや動きを確認するようすを撮影されるという緊張感とともに、真剣に取り組んでいた。 4. iMovieアプリケーションで、動画の編集を行い、イラストや音を加えて伝えたい内容に近づける。 5. グループごとに、iPadをappleTVにつないで、画面上に写しながら発表し、意見を共有した。
効果・評価	子供の様子や変容および授業の評価	iPadで撮影し、劇の確認作業をする中で、1つの動画の中の「必要な部分と不必要な部分」に気づき、不必要な部分を削除したい、また2つの動画をつなぎ合わせたいという意見が出てきた。 「iPadに入っているiMovie(アプリケーション)でできるのではないか」という担任の助言、先生を囲んで、児童と一緒にiMovieを操作し、試行錯誤しながら、動画編集まで挑戦する姿が見られた。



図1 撮影の様子